

自立と共生！

たくましい日本！

No. 214号

民主党 中川正春の **永田町かわら版**

2004年4月19日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128 FAX 03-3508-3428

<http://www.MASAHARU.GR.JP>E-mail g03063@shugiin.go.jp**○人質事件が一段落。****自衛隊のイラク派遣は、原点に戻す時**

イラクの人質事件は、いろいろ考えさせられました。

「3人の安否を、無事なのかどうか。どんな事しても、まずそこを確かめたい。どうか助けてください。」イラクで人質になっている3人の家族のうったえをきいたときには、本当に胸が詰まりました。民間ボランティアに危害を加える誘拐犯の無差別犯罪に憤りを感じました。

さまざまな情報が錯綜していました。党からも藤田幸久国際局長がアンマンに派遣されて逢沢外務副大臣とともに情報収集にあたり、私たちの対策本部に適宜現地の情報がもたらされました。

犯人は、テレビを使って一方的な情報を流しました。どれが本物で、どの系統のグループに属しているのかさえハッキリしていなかった。問題は、政府が犯人グループとの直接交渉が出来ていないことでした。CPAやアメリカ軍を通して宗教指導者、ファルージャ周辺の族長に仲介を頼みながら対応の模索をしているのが現状だと感じました。アメリカ軍は、日本の人質以外にも、ファルージャの停戦合意とそれに関連する自国や他の国の人質問題もかかえていました。日本の問題もこうした交渉の中に混在されてしまって、情報が錯綜していたのだと思います。それに加えて、犯行グループも全体として統率されている様子はなく、意見の対立を起こしながら勝手に動いているふしがありました。

私たちは、まず5人の人命救助を最優先させました。そのためには、政府の努力に精一杯の協力をすること。さらに、テロや脅しに屈した形で自衛隊の撤退はしないという政府の姿勢も支持をしました。ここが崩れると、日本の民間人が新たなテロにねらわれて、さ

自衛隊がイラクに駐留しつづけることには反対です。イラクは内乱状態です。アメリカでは、ブッシュ政権の責任が厳しく問われています。小泉総理の自衛隊派遣の判断も間違っていた。このことを問うていく時期が来ています。

○年金国会、大いに荒れる

年金議論が迷走しています。政府は、今の年金制度をそのままにした保険料金の値上げ案。私たちは、共済年金や国民年金、厚生年金と不公平の原点を一元化して一挙に解消すること。新しい年金は、保険料を所得に応じて今のレベルに据え置いた上で、7万円の最低給付を保障するためには、保険料は上げずに、消費税の3%アップで対応することを考えています。政府は、今の家にペンキを塗ってしのごうと言う。私たちは、土台が腐っているから、家自体を建て直そうと言っています。

法案の審査は、連休前には衆議院で採決をしてしまわないと参議院の時間が取れなくて継続審査になりかねない。強行採決でも何でもいから、とにかく連休前に審議を上げろというのが自民党国対からの至上命令で現場に下りてきています。自民党としては継続審査で残される事によって、年金問題が7月の参議院選挙の争点になることを恐れているのです。

「採決だけを念頭においた審議は許せない。国民にとってどのような制度がいいのか、共通の協議機関でも作って十分に話し合っ行ってはいないか。取り敢えずのペンキ塗り、この際あきらめて、家の建て替えについて両方で話し合おう。それがテーマになるまでは、強行採決に向かうための委員会の開催には応じられない。」このように主張しながら、委員会室の前でピケを張って開催を阻止したのが先週の金曜日。私も腕まくりをして現場に駆けつけたのですが、「中川さんが頑張ると、ま

らなる犠牲を誘発します。ここまでが、危機対応でした。

しかし、ことが一段落した今、原点に戻った議論が必要です。イラクの現状が泥沼化してきました。さらに、戦うことの禁じられている自衛隊が攻撃の標的にされつつあります。この状況で、

た流血騒ぎになるといけないから、今度は、後ろで私たちの様子を見ていてください。」と、若い人たちにいたわられてしまいました。